

京都嵯峨芸術大学広報

Special Feature

新たな制作展のかたちへ

Contribution

退職記念展に寄せて

News

平成16年度予算編成基本方針／大学院設置構想^{ほか}

Topics

地域貢献／在学生の活躍^{ほか}

Information

入学試験関連情報／展覧会情報^{ほか}



森原校舎建設現場20031215



新たな制作展のかたちへ



学生生活の中で磨いた感性と表現力を発表する展覧会が毎年2月に開催する「制作展」です。

今年度の制作展は、前身の嵯峨美術短期大学から現在まで32回積み重ねてきた展覧会と大きく変わります。それを今回の見所として、ご紹介します。

(1) 芸術学部の進級制作展を美術館で開催

短期大学の卒業・修了作品に加え、芸術学部一期生(現3回生)の進級作品を初めて京都市美術館に展示します。

芸術学部造形学科には、日本画/油画/版画/彫刻と、本学園にとって新しい領域であるメディアアートの5分野があり、それぞれに次代への可能性を秘めた新たな造形表現への挑戦が展開されることと期待します。

また、世界に先駆けて同学部に設置した観光デザイン学科の先鋭的なカリキュラムから生まれる研究や作品も、初めて一堂に会することになります。「観光デザイン」とは何なのか、どのようなことが学べる学科なのか、どのような人材が育つのか、という問いに対する答えになるのではないのでしょうか。

(2) 学生の意匠による広告展開

ここ数年、プロのデザイナーに依頼して制作展の広告展開を行ってきましたが、「自分たちの制作展は自分たちの手でイメージづくりをしたい」

という学生の強い要望から、今年度は学生の意向を活かした広告展開を試みることにしました。

実際には、教授会組織である制作展委員会の中に有志の学生による制作展広報委員会を組織させ、企画立案からデザイン制作に至るまで極力学生たちの手で行える体制を整えて、告知に使用する案内八ガキとポスターの原画を学内から募集しました。

応募テーマを“ぎゃふんといわせろ!”に設定した、この原画コンクールでは、学生と6名の教員審査員による投票の結果、応募総数28点の中から最も得票数の高かった堂下真紀子さん(短期大学部美術学科グラフィックデザイン標準コース2回生)の作品が、今年度の制作展イメージとして採用され、原画をもとにしたデザイン原稿づくりも学生制作展広報委員会と堂下さんが協力して仕上げました。関わった学生たちは、ひとつの印刷物ができあがるまでの過程を通してデザイン作業の難しさなどを経験し、今年度の広告展開には教育的効果も十分あったと考えます。

なお、この学生の手によるポスターは、関西圏の公共施設等に配布するほか、主要交通機関において広く掲出する予定です。ご父兄のみならず関係各所へは案内八ガキを郵送します。

(3) より充実の学内制作展

学内では、芸術学部2回生と短期大学部1回生の進級制作展を開催します。「university museum ~ 創造発信 ~」をテーマに、大学全体を展示会場とし、さまざまな企画を用意しています。

京都嵯峨芸術大学完成年度へ向けて、今まで以上に表現分野を広げながらも、学生一人ひとりに対する教員のサポートを充実させています。芸術学部・短期大学部ともに作品の濃度がさらに増し、一段と活性化した「制作展」にぜひ足をお運びください。

短期大学部卒業・修了作品、芸術学部進級作品
会期 / 2004年2月4日(水)~2月8日(日) 9:00~17:00
2月4日(水)のみ12:00~17:00
会場 / 京都市美術館(京都市左京区岡崎)
芸術学部・短期大学部進級作品
会期 / 2004年2月7日(土)~2月13日(金) 9:00~17:00
会場 / 京都嵯峨芸術大学

『感動から創作へ』 退職記念展に寄せて

泉地保雄 ●京都嵯峨芸術大学短期大学部美術学科洋画標準コース 教授

退職記念展には、嵯峨美術短期大学の教員になってからの作品を並べた。

画集の印刷でない実物の作品を観たい - この芸術への憶い断ちがたく、16年間勤めた会社を辞め、二番目の娘が生まれた頃、無謀とも思える画家への道を歩き始める。諸国を巡り、書物を読み、特にシエナのモンテ・デ・バスキ財団の厚意によりシエナ派を研究した。華やかなフィレンツェ派やローマ派と違う、地味とも云えるシエナの作品群は、私の目指していたものと一致し、作品に結晶し始め、5年程の研究と制作期間を経たのち、恩師、佐和隆研初代学長のすすめを得て、開設されたばかりの美術教養コースの洋画指導教員となった。45才を過ぎた再出発であった。

このコースは、佐和先生の永年の構想から生まれた学科で、実習と美学美術史とが結びついた、我国でもユニークなカリキュラムを持って、日本画か洋画、銅版画を選んで、文献を講読し、美術史演習で美術館や寺院を訪れ、卒業論文を書かせるクラスであったが、佐和先生の没後、その性格が明確でないとする理由からか、廃科となった。その後、洋画コースへと転科し、今日に至っている。

かつて、中学、高校と、美術のクラブ活動にのめりこんだ若輩の私が、京都市立美術大学(現:京都市立芸術大学)へ入学したとき、先生方の教養の深さに圧倒される。黒田重太郎師は、画

家として二紀会の創立会員であるとともに、多数の美術史関係の著者であり、須田国太郎師は、独立美術や芸術員会員の画家でありながら、写実絵画やベネチア派の研究で知られる学者で、他コースでも我国美術界の頂点に立つ日本画家や工芸作家が並び立たれ、その時代に学生生活を送れた私には夢のような雰囲気であった。

画家でありながら学問的教養を身につけたい、そんな想いが、実習の先生も講義するようこの大学の要望に、ささやかながら参加しようと、専攻科に構図論と西洋伝統技法の2講座を開いたが、3月には、私の退職を機にこの講座は消失する。

退職記念展でも示されているように、西洋絵画の研究からくる60才までの制作にも、還暦を機に大きく転換する。この動きは、50才の中頃から徐々に芽生えたものだが、西洋から東方への関心からの創作発展となった。シルクロード、インド、中国、またアフリカ諸国への美術研修が、西洋絵画の研究との二つの大きな流れとなっている。

新しい美術運動はすぐに古くなる。浅い外国の模倣は、我国の真の芸術文化に根づかない。流行に振り廻されることなく、自分で見つけたものを掘り下げ、作品の質を高める。日本の文化遺産になれるような作家を京都嵯峨芸術大学から育てたい。その願いを後進の先生方に託して、3月にこの学園を去る。



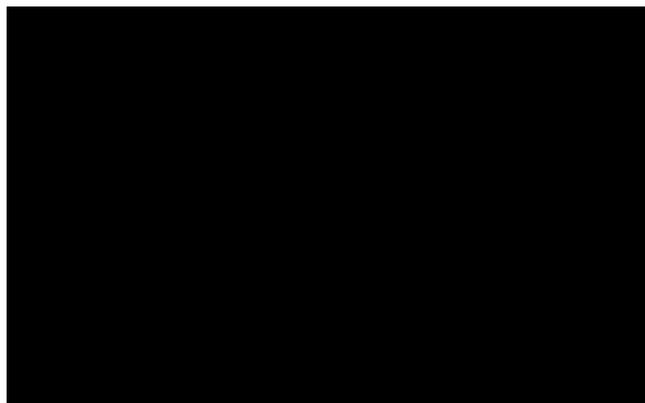
泉地保雄 IZUMI ICHIRO 京都嵯峨芸術大学短期大学部 教授

1939年大阪生まれ
京都市立美術大学洋画科を卒業後、京都新聞社勤務を経て、本学短期大学の前身である嵯峨美術短期大学の美術教養コースに講師として着任。助教ののち教授として洋画実習等の指導にあたる。
2004年3月、京都嵯峨芸術大学短期大学部教授を退職予定。
二紀会委員、二紀会京都支部長を務める他、個展を毎年開催するなどして活躍している。

退職記念展『感動から創作へ』
2003年10月21日(火)から11月1日(土)まで、本学附属ギャラリー「アートスペース嵯峨」にて行われた。
会場には、テンペラと油彩を併用する混合技法で描かれた大作から、旅先でのスケッチなど、初期から近年までの作品約30点が所狭しと展示された。
展示作品のひとつ、会場正面に掲げられた200号の大作「村の学校」について泉地先生は、「学ぶ心は環境に左右されないことを大学を去るメモリーとして描いた」と、研究紀要第28号(2003年3月発行)に記している。



「古楽器によせて」 150号 / テンペラ・油彩 1983年制作



「村の学校」 200号 / テンペラ・油彩 2002年制作



次年度へ向けて

平成16年度予算編成基本方針

平成16年4月完成の学生情報センター(仮称)や附属図書館を中心とした森原校舎(仮称)の建設をはじめ、学生生活がより充実できるよう、教育環境整備を推進しているところですが、先回7月の理事会で確認された「学園運営の基本方針ならびに将来計画」に基づき、その推進と具現化を基本とした予算編成基本方針が、このほど承認されました。

第三者認証機関への対応や、地域への文化発信プロジェクトの推進なども、基本方針として認められました。

各部門からの事業計画案をもとに、本学の重要な事業を効率よく推進するため、予算主義の徹底をはかり、さらなる教育環境の充実をめざします。

大学院設置構想

京都嵯峨芸術大学大学院 芸術研究科・芸術文化専攻の設置構想が、理事会において了承されました。

既に教授会で大学院設置構想委員会からの中間報告が行われ、平成16年6月末の設置申請、平成17年度開設に向けて準備室が開設されました。現在、準備室では、申請書類の作成をはじめ、教育課程の具体的整備に取りかかっています。

芸術学部を基礎としながら、「社会状況に対応した高度な教育・研究」、「専門領域での高度な研究と分野横断・融合による新たな芸術表現の研究」を設置の趣旨として、より高度な研究・教育体制を整備していきます。



就業規則の一部改正

労働組合との協議により、産前休暇を現行の6週間から8週間に改めることが決定いたしました。改正の規則は平成15年11月28日より施行されます。



進捗状況の報告

森原校舎(仮称)は、平成16年4月の竣工を目標として、工事を順調に進めています。5月には講義室等の各施設を稼働させる予定のため、現在、関係部署が準備段階に入っています。また、秋には竣工を記念して、新校舎を会場としたイベントを企画しています。

4階 / 演習室(完成予想図)



2階 / 学生情報センター(完成予想図)



1階 / 附属図書館(完成予想図)



後援活動

教育後援会では、平成15年9月20日(土)に地区別保護者懇談会(大阪地区)を開催し、11月22日(土)~23日(日)に開催された学園祭に対しては、例年通り、学園祭後援費を補助いたしました。

また、今後の活動予定として、平成16年2月8日(日)に制作展見学を兼ねて保護者懇談会を開催するほか、3月19日(金)には卒業祝賀パーティーを後援会主催のもと執り行います。保護者の皆様には、各行事へのご参加をお待ちいたします。



学生クラブボックスの建設

現在の学生ホール奥にあるクラブボックス(図書館・講堂棟1F)を取り壊し、新たに北グラウンドへ建設することになりました。

2階建て(総面積523.8m²)、26室(1室約14m²)のクラブボックスと、シャワールームやミーティングルーム、学生会ボックスも設置予定です。今春から工事を開始し、夏の完成をめざします。

なお、クラブボックス移転後に発生する図書館・講堂棟1Fの跡地スペースについては、学生のための施設を考えています。現在、学生部関係者を中心に検討を進めているところです。

このクラブボックス建設に伴い、北グラウンドの利用については、少なからず利用制限が加わることとなりますが、西山グラウンド(京都市西京区大枝)の整備も視野に入れながら、今後の活用を考えていきたいと思っております。

短期大学部定員の確定

短期大学部の入学定員を、現在の270名(臨時的定員120名、恒常的定員150名)から、恒常的定員250名とする学則変更の認可申請を行い、平成15年9月30日付で認可となりました。

このことにより、平成16年4月の入学生から、短期大学部入学定員は250名となります。

京都市教育委員会との協定締結

平成13年4月の四年制大学開設以来、本学が重要な政策のひとつとして取り組んできた「地域社会との連携」をいっそう確実にするため、平成15年6月10日(火)付で京都市教育委員会との連携協定を締結しました。

内容は、京都市立学校・幼稚園での学生ボランティア活動に関する協定と、相互の人的・知的資源の交流・活用を図り、教育活動の活性化を促進するための包括協定です。本学独自に実施していた地域社会との連携に関する諸活動が、この協定により公的に認知されたこととなります。

昇任人事

芸術学部の増田洋助教授が教授に昇格されました。(文部科学省の8月審査を経て、平成15年4月1日に遡及して昇格)

地域への文化発信 ～地域に根ざし、地域に開かれ、地域と共に生きる大学を目指して～

京都嵯峨野文化サロン



京都嵯峨野文化サロンは、嵯峨野の伝統を探りながら、現代人の美意識に合った新しい文化や芸術を、この地“嵯峨野”から発信していくことを目指し、旧嵯峨御所大本山大覚寺と本学が連携して開設したもので、今年度で発足から二年目となります。

第二回企画は、「平安人の心を捉えた梁塵秘抄の世界」をテーマとし、講演に同志社女子大学教授の藤谷壽氏を、舞と歌唱に日本今様舞楽会を迎えて、2003年10月4日(土)大覚寺にて開催しました。

「後白河法皇の人となり」と題し、今様を好んだ平安時代の人々の生活についてユーモアを交えながらお話しいただいた藤谷氏の講演に惹きつけられた約200名の参加者らは、続いて幻想的な月明かりのもと行われた日本今様舞楽会による舞と歌唱に、とかく忙しい現代社会を忘れ、優雅なひとときへといざなわれました。

今後も、嵯峨野の素晴らしい伝統と文化を継承しつつ、新たなアプローチを加味した企画を提供していきたいと考えます。(第三回企画は2004年10月の予定)



附属博物館主催の講演会

2004年1月24日(土)まで開催中の第5回企画展「花留-いけばなの粋-」に伴う講演会を、2003年11月15日(土)に本学で開催しました。

本学の非常勤講師でもある庄司信洲氏(嵯峨御流華道総司所教授)による「いけばなの粋」と題した講演は、花材を留めるための道具“花留”の文化史について、実際に花留を用いたいけばなを実演しながら語られ、参加者は真剣なまなざしでメモをとっていました。当日は近畿圏以外からも大勢の人々が訪れ、活気のある雰囲気の中で行われました。

小学校と連携したワークショップ

附属博物館では、近隣の京都市立嵐山小学校とともに、第5回企画展「花留-いけばなの粋-」にちなんでワークショップを本学で開催しました。

同小学校の児童を対象とした「花留を粘土で作ろう!」(2003年11月15日(土)に実施)では、恐竜や電車など、既存の花留にはない造形が子どもたちの豊かな発想から生まれました。また、同小学校の父兄を対象とした「花器を粘土で作ろう!」(2003年11月29日(土)実施)では、粘土の感触を懐かしみながら、参加者は思い思いの形につくりあげていました。

両日ともに短期大学部陶芸研究室の協力を得て指導を行い、できあがった作品は、後日、焼成を施してから児童たちのもとへ届けられました。

なお、企画展に伴ったワークショップは、今後も実施していく予定です。



ミュージアムロード2003

2003年10月30日(木)に京都市美術

館で開催された京都博物館連絡協議会主催の「ミュージアムロード2003 / 見てふれて楽しむ京の博物館」に、京都市域の小学生への美術鑑賞指導を目的として、本学から学芸員課程を履修する芸術学部生約40名が参加しました。

博物館がもつ役割のひとつである、将来の上質な鑑賞者になることもたちに鑑賞の手ほどきをする、という生涯学習の現場を体験した学生たちは、初めてのことに試行錯誤しながらも、貴重な経験を積むことができました。

介護老人保健施設への協力

近隣の介護老人保健施設「ケア・スポーツ梅津」に、現在、短期大学部2回生と専攻科生ら5名の作品を展示しています。

生き生きとして障害者の心にも響くような学生たちの作品を展示したいという同施設からの依頼を受けて、短期大学部日本画研究室の北村正己助教授が中心となって取り組み、障害を持つ人や高齢者でも見やすい色や形の作品を選んで貸し出しを行っています。

社会協力としての創作活動という新たな視点を得て、これからも積極的に社会との連携を推進していきたいと考えます。

物産の活性化に向けて提案

短期大学部グラフィックデザイン研究室では、産学連携の取り組みとして、2003年11月30日(日)に奈良県吉野町商工会で吉野町の物産に関して新商品のプレゼンテーションを行いました。

自然豊かな吉野町は、日本でも指折りの桜の名所であり、スギやヒノキ等の材木や手漉き和紙の産地としても知られています。今回、こうした吉野町の素材を使った商品開発の企画を地元企業十数社に向けて提案。専攻科生・卒業生ら約20名が毎月の勉強会で作成した企画書を用いてプレゼンを行い、現場の空気を肌で感じる貴重な体験を得ました。

土産物から生活グッズ、インテリアにわたる提案は「アイデアだけでなく、市場性を勘案している」と参加企業の関心も高く、現在、商品化が検討されています。

T 特別講座

幅広い分野から講師を招聘

特別講座は、平常授業では学習できない知識や技能の修得を目的に、授業の一環として各学科・コースによる主催のもと実施している公開講座です。一年間に開講する講座のほぼ全てが全学および一般を対象としており、学生にとっては学部学科等の所属枠を越えて聴講することができるため、貴重な時間となっています。

2003年度は、作家やプログラマー、クリエイティブディレクター、観光業界関係者等、造形分野から観光分野まで各方面の第一線で活躍されている方々を講師にお迎えし、前期に4講座、後期に8講座を開講しました。

中でも、2002年度に本学と短期交換留学制度の協定を結んだインドのヴィシュヴァバラティ大学から、ニルマレンドゥ・ダス教授を講師に迎えて行われた「インド、グラフィックアート(版画)及びペインティングの現状」と題した講座では、日本では見られない表現や技法の紹介に、参加学生らは強い関心を寄せていました。

このような国際交流をかねた講座をはじめとし、学生にとって有意義な講座はもちろんのこと、地域に開かれた大学づくりの一環としてますます充実した講座をこれからも開講していきます。



2003年度前期に開催した特別講座	
西表島の自然と文化のデザイン	石垣金星氏
自然は時間とともに真の姿を現すか	野村仁氏
異文化コミュニケーション	品川芳洋氏
作品と仕事	ヒロ杉山氏
2003年度後期に開催した特別講座	
インド、グラフィックアート(版画)およびペインティングの現状	ニルマレンドゥ・ダス氏
私の出会った企業たち	今坂英一氏
絵を描き続けること	戸田勝久氏
京都観光の課題と将来について - 嵯峨野・嵐山への提案 -	西口光博氏
Photo-graphy / Scoto-graphy 光画と盲画	石原友明氏
現代版画論	木村秀樹氏
Web/media art	春木祐美子氏
バイオメディアアートの可能性 - サツマイモは脳アートへの夢を見るか -	桐金裕司氏

T 教員の活躍

伝統技法の再現

芸術学部造形学科日本画分野の箱崎睦昌教授を研究代表者として文部科学省の平成15年度科学研究補助金が採択されたことにより、台南市(台湾)に所在する興濟宮および王家一族の宗祠を中心とした東アジア建造物装飾彩色の保存修復に関する研究が前進し始めました。この研究の中で、同日本画分野の古画研究工房が、興濟宮と王家宗祠の扉絵を復原模写することになりました。

調査の結果、興濟宮の扉絵の復原模写には、かつて建造物の彩色下地に使用されていた「豚血下地」を施した上へ、同じく伝統的な東洋画技法である「桐油絵」と「澱粉貼金」を用いて描くこととし、9月下旬には、貴重な研究成果である「豚血下地」による処置をひろく報道機関に公開しました。



著書紹介

「ハイド氏の奇妙な犯罪」

三好郁朗学長が、ジャン=ピエール・ノーグレット氏の著作「ハイド氏の奇妙な犯罪」の訳書を創元推理文庫より出版されました。R・L=スティーヴンスン氏が書いた有名な「ジキル博士とハイド氏」をハイド氏の視点から捉えたバステイツシュで、シャーロック・ホームズも登場するなど意外な展開をみせます。

「考える方法」

芸術学部観光デザイン学科の森本武教授が、著作「考える方法《解決の思考・創造の思考・思考なき思考》」を株式会社日本デザインクリエイターズカンパニーより出版されました。創造に関わる人に限らず、より広く「考える」行為に関心を寄せる人たちに向けて書かれています。

T 国際交流

国際交流活動の推進

短期交換留学生の受け入れ

2001年度に短期交換留学制度の協定を結んだ、スコットランド(UK)のエディンバラ美術大学より、今年度も2名の短期交換留学生を受け入れました。11月7日(金)から、短期大学部日本画標準コースと生活デザイン標準コースの実習授業にそれぞれ参加し、制作に励んでいます。2月には、本学から専攻科生2名が短期交換留学生としてエディンバラ美術大学へ留学する予定です。

また、今年度分の受け入れはありませんでしたが、2002年度に短期交換留学制度の協定を結んだインドのヴィシュヴァバラティ大学へは、夏期休暇中に本学から2名を送り出しています。

現在、新たに、オーストラリアのグリフィス大学との編入学協定についても調整を行っている段階にあり、国際交流を通じた学習や進路の幅をさらに広げています。

海外美術研修

海外美術研修とは、海外の美術・デザイン文化に直接触れることによって、本学で得た知識・理論を検証し、より広い視野と国際感覚を身につけ、学習の意欲を高めることを目的とした科目です。

今年度は南欧の美術研修を実施することになり、年末年始にかけてスペイン～イタリア～フランスの主要美術館や歴史的建造物をまわりました。

T 卒業生の活躍

卒業生の著書紹介

洋画科19期生の竹内聡子さん(作家名:笹シユウ子)が、10月に共著「ニューヨーク。ちよびり泣いた。たくさん笑った!」をすばる舎より出版されました。イラストの一部は、同期生の森田多恵子さんが担当されています。

なお、竹内さんは、アサヒ・コム(朝日新聞)のUSA地域情報ページでエッセイ「NYデリサラダ」を連載するなどの活躍をされています。

各方面で在学生在が活躍中

第1回京都学生祭典に参加

2003年10月11日(土)、平安神宮周辺にて10万人余りを集めて開催された「第1回京都学生祭典」において、本学では実行委員会を組織して参加しました。

この祭典は、大学コンソーシアム京都加盟大学の学生自らが企画運営、営業宣伝を行ったイベントで、本学は神宮道にて開催された「JNGU Street Student Museum」に参加し、第1部「University Museum」でグランプリを、第2部「大学自慢の阿国自慢」で準グランプリをそれぞれ受賞しました。

学園祭「嵐芸祭」を開催

2003年11月22日(土)・23日(日・祝)の両日、「燃焼系サガノ式」をテーマに嵐芸祭を開催し、メインゲストとして22日にS LVA & KAY LME、23日に鳥肌実公演を行いました。鳥肌実公演には約1200名が集ったのを始め、嵐展(学生作品コンペ)や中庭イベント、クラブ

展示、模擬店、フリーマーケット等が盛大に行われました。また、教職員による模擬店も出店し、来場者、学生、教職員ともに心を燃焼した2日間となりました。

観光に関する学術研究論文の入賞

(財)アジア太平洋観光交流センター主催の「第9回観光に関する学術研究論文」において、芸術学部観光デザイン学科の3回生15名による共同論文「観光地におけるリスクマネージメントに関する研究 - 関西SARS騒動を題材に - 」が奨励賞を受賞。研究者や博士・修士課程者が主たる入賞者の中、学部生による入賞は始めて以来のことです。

ボルネオ島エコツアー体験記を出版

本学観光デザイン研究センターより、芸術学部観光デザイン学科の学生たちによる企画・デザイン・編集の著作「アラム ラグ」が出版されました。エコツアーリズムの在るべき姿を模索し、提言し

ていくための第一歩として、マレーシア・ボルネオ島エコツアー研修から学んだことを体験記としてまとめています。購入のお申込みは同センターまで。

「JU CY UFO」放送開始

学生有志とミニFM局「京都三条ラジオカフェ」の共同企画によって制作されたラジオ番組「JU CY UFO」が現在オンエア中です。

学生スタッフが日夜マイクを携帯し、近所の生き物の声や環境音、インド音楽等の音素材を集めながら制作しました。保健室の先生の不思議な魅力に迫る実験的ドキュメンタリ「保健室の先生」や、お風呂のドラマ「ベティ」等、多彩なプログラムを用意しています。放送は、京都三条ラジオカフェ(FM79.7MHz、京都市街地で聴取可能)で12月19日から2月13日までの毎週金曜日(1月2日除く)21:00から30分間です。アートとしての「音」を、どうぞお楽しみください。

T 附属ギャラリー「アールスペース嵯峨」

JAGDA新人賞展

10月16日(木)~19日(日)に、日本グラフィックデザイナー協会京都の企画による「JAGDA新人賞展2003京都巡回展」が開催されました。

30代の中堅デザイナー、柿木原政広・林規章・水野学の3氏による多彩な作品からは、デザインの実践的な現場が具体的に示され、学生には制作や就職・進路に向けての効果的な刺激となったようです。また、会期中、JAGDAワンドースクールが、資生堂のデザインで知られる仲條正義氏を迎え、本学の鯛天成雄教授、大西治雄講師も交えたトークショー形式で催されました。プロから学生まで共にデザインに生きる同志として親しみやすい交流の場となりました。

デザイン専攻科作品展

11月11日(火)~18日(火)に、短期大学部専攻科デザイン専攻1・2回生の選抜作品展を開催しました。グラフィック

クポスターから生活用具まで、ジャンルや表現する内容は異なるものの、それぞれが設定したコンセプトのもと、豊かな感性でつくりあげた作品が並びました。

TRANSLABO

異なる領域を横断的に結び、その研究の過程と成果を発表する試みとして「TRANSLABO」を計画。11月26日(水)~29日(土)に展覧会を開催して、4日間の会期に約120名の来場者を得ました。

ナムジュンパイク美術館や南方熊楠研究所の設計競技への応募案や、大東建託株式会社商品企画部と観光デザイン学科藤木庸介研究室による低層/中層集合住宅デザイン企画開発の建築計画案、島津製作所航空機器事業部と造形学科メディアアート分野とのヘッドマウントディスプレイに関する共同研究等、一見個々のつながりは理解しにくいように見えますが、異領域を専攻する学生や教職員、一般来場者との相互交流

を含めて、それぞれの表現活動や研究の可能性を大きく開き、新たな領域横断の芽を得たことと思います。



マイカメラ・マイスタイル・マイフォト展

本学の教職員による写真展を12月2日(火)~17日(水)に開催しました。「こだわりのカメラ、こだわりの撮影スタイル」をコンセプトに、第2回を迎えた今年は「モノクロームでいこう!」のテーマのもと、12名が参加しました。白黒写真の中に広がる、それぞれ独自の視点で捉えた世界が、観る者を魅了しました。

■ 入学試験関連情報

芸術学部・短期大学部ともに推薦入試を終えて、新年を迎えてからは、いよいよ一般入試が始まります。

今年度から新たに、大学入試センター試験を利用した入試を観光デザイン学科で実施します。センター試験での2教科(2科目)受験に加え、本学において面接試験を行う選抜方式となります。
[入試課] TEL075 864 7878(直)
nyush@kyoto-saga.ac.jp

2004年度入学試験日程				
試験種別	出願期間	試験日	試験会場	合格発表
京都嵯峨芸術大学				
一般(前期)	1/13(火)~1/26(月)持参日1/27(火)	2/2(月)	本学・東京・岡山	2/6(金)
海外帰国生入学特別選抜	1/13(火)~1/26(月)持参日1/27(火)	2/2(月)	本学	2/6(金)
社会人入学特別選抜	1/13(火)~1/26(月)持参日1/27(火)	2/2(月)	本学	2/6(金)
センター試験利用[観光デザイン学科]	2/2(月)~2/16(月)持参日2/17(火)	2/27(金)	本学(面接のみ)	3/5(金)
一般(中期)[造形学科]	2/5(木)~2/20(金)持参日2/23(月)	2/27(金)	本学	3/5(金)
一般(後期)	3/5(金)~3/16(火)持参日3/17(水)	3/21(日)	本学	3/26(金)
京都嵯峨芸術大学短期大学部				
一般(前期)	1/6(火)~1/19(月)持参日1/20(火)	1/25(日)	本学・東京・岡山	1/30(金)
一般(中期)	2/5(木)~2/20(金)持参日2/23(月)	2/26(木)	本学	3/5(金)
社会人入学特別選抜(後期)	2/5(木)~2/20(金)持参日2/23(月)	2/26(木)	本学	3/5(金)
一般(後期)(自己表現)	3/5(金)~3/16(火)持参日3/17(水)	3/20(土)	本学	3/26(金)

■ 附属博物館 企画展

第5回企画展『花留 - いけばなの粋』
現在、附属博物館では、花材を花器に留めるための用具「花留(はなどめ)」の変遷をたどり、その造形美に注目した展覧会を開催しています。
会期...10/28(火)~1/24(土)

第6回企画展『草原の国「モンゴル」の造形 異文化を知るⅠ』
今回の企画展では、異国の地へ目線を広げ、モンゴルの民具に着目します。また、会期中は、ギャラリーや図書館等でも関連企画を予定しています。
会期...4/1(木)~6/30(水)

第5回・第6回企画展ともに、開館時間は10:00~18:00(最終日17:00迄)、休館は毎月曜日(祝日の場合、翌火曜)です。お問合せは附属博物館(TEL075 864-7852)まで。

■ アートスペース嵯峨

1月~3月の展覧会スケジュール
附属ギャラリー「アートスペース嵯峨」では、下記の展覧会を予定しています。詳細については、附属施設課(TEL075-864 7860)までお問合せください。
1/13(火)~1/17(土)
「観光デザイン学科ドローイング展」
1/27(火)~2/1(日)
「大植基正展」
2/7(土)~2/13(金)
「短期大学部進級制作展(生活デザイン)」
2/17(火)~2/29(日)
「研究生展」
2/23(月)・26(木)・27(金)休館
3/2(火)~3/7(日)
「グラフィックデザイン卒業生・デザイン専攻科展」
なお、大学行事などにより、会期や休館日が変更になる場合があります。ご了承ください。

■ 大学行事

卒業・修了式ならびに制作展授賞式
平成15年度京都嵯峨芸術大学短期大学部の卒業・修了式と、制作展受賞者への授賞式を下記のとおり執行いたします。
日時...2004年3月19日(金)
制作展授賞式10:30~
卒業・修了式11:00~
会場...講堂(図書館講堂棟4階)

■ 同窓会

同窓会報発行と総会の開催
同窓会では、会報「晨」第4号を1月に発行し、制作展のご案内とともに同窓会会員にお届けします。
また、例年どおり、大学の制作展において卒業生特別賞ならびに投票者賞の選出を行います。2/4(水)~8(日)の会期中に卒業生のみならず投票していただき、2/8(日)に開催する総会・懇親会において集計作業を行います。

■ 教員の活動情報(展覧会、講演)

展覧会	京都府立文化博物館	京都府立文化芸術会館	京都府立文化芸術会館	富山県水墨美術館	日本橋高島屋(東京)	キートン(京都)	松阪屋銀座店(東京)	ギャラリー三條(京都)	ギャラリーみつはし(京都)	弘益大学校ギャラリー(韓国)	大覚寺大沢池(京都)	長江上流域農村部(中国)																										
12/17~1/16 第35回日展京都巡回展	1/2~1/13 日本画対洋画「美の競演その未来」	1/11~1/31 竹のデザインフィンランド+日本	1/20~2/1 創生へのパトス展V	1/24~3/3 「DOMAN+明日」展2004	1/24~2/8 京都府美術工芸新鋭選抜展2004新しい波	1/27~2/1 日本画の巨匠たち	2/2~2/14 Ceram ic Site 2004	2/3~2/8 二科京滋支部会員・会友展	2/13~3/21 現代の水墨画2004・墨の可能性と新たな創造	2/25~3/1 春季企画展	2/25~2/29 竹のデザインフィンランド+日本	3/3~3/8 春季二科展	同上	3/6~3/14 ミニアチュール「私の一点」展	3/16~3/28 アーティストによるジュエリー展	3/29~4/3 染織展	その他	2月下旬 草魚バスターズ	3/4~3/11 長江上流域環境教育林建設事業・環境改善活動	辻信夫、吉水絹代 染織	林潤一 日本画	金氏脩介 観光デザイン	入佐美南子 油画	土手朋英 日本画	日野田崇 陶芸	林潤一 日本画	日野田崇 陶芸	入佐美南子 油画	箱崎睦昌 日本画	土手朋英 日本画	金氏脩介 観光デザイン	黒川彰夫 洋画	瀧澤賢福 混合表現	加藤明子 造形基礎	平松國和 彫刻	吉水絹代 染織	真板昭夫 観光デザイン	山村高淑 観光デザイン

期間、展覧会名、会場、出展者 所属 の順に記載(敬称略)。また、記載内容は変更する場合もございますので、ご了承ください。非常勤教職員、その他の情報は本学のWEBサイトをご覧ください。

京都嵯峨芸術大学広報

第6号

2004年1月9日発行

編集 京都嵯峨芸術大学 企画広報室

発行 学校法人大覚寺学園 京都嵯峨芸術大学

〒616 8362 京都市右京区嵯峨五島町1番地

TEL 075 864 7859

FAX 075 882 7770

http://www.kyoto-saga.ac.jp

info@kyoto-saga.ac.jp

印刷 株式会社 石田大成社